

「第2次木津川市ごみ減量化推進計画」パブリックコメント提出意見

1. 公表期間：令和7年12月11日（木）から令和8年1月13日（火）まで
2. 計画（案）に対する意見提出者数：計3人（持参・FAX0人、電子メール2人、専用フォーム1人）
3. 提出意見数：計20件
4. 提出された意見：

番号	種別	該当箇所	ご意見	市の考え方（案）	計画への反映
1	意見	39頁	数値的な根拠は残せていませんが、有料化を境に、当施設敷地内での不法投棄、家庭ゴミの持ち込み、基準に満たない状態（洗っていない、分別不十分等）でのリサイクルゴミへの排出等が明らかに増えています。	資源回収の基準を満たさない汚れているものや分別不足は、市のごみ回収でも課題となっています。分別の徹底や適切な排出、商業施設等で実施されている資源回収にそぐわない家庭ごみの持ち込み禁止等について、市民への周知・啓発を行います。	—
2	意見	2頁 計画の位置づけ	この「もったいないプラン」が補完する上位計画である「ごみ処理基本計画」だが、HP上で検索すると二か所でヒットしてしまう。一か所目は「ごみ・リサイクル➡クリーンセンター（環境の森センター・きづがわ）建設の経過➡一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」で、なぜか平成22年の古い計画がそのまま掲載。もう一か所は「市政情報➡市の計画・報告書➡木津川市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」でたどり着き、こちらは令和7年3月策定の正しいものが掲載されている。初歩的な事務ミスと思われるが、直ちに訂正して頂き、今度このような事がないようにして頂きたい。 同じくHPの管理不足がもう一点ある。「分別収集計画」だが、これもまたHP上で二か所でヒットする状態だ。一か所は「市政情報➡市の計画・報告書➡環境関連の計画」の場所で、古い第9期のものが掲載されたまま。もう一か所は「ごみ・リサイクル➡ごみの分別と収集」の場所で、こちらは最新の第10期が掲載されている。 パブリックコメントではこの計画の内容について論じるべきなのだが、このような指摘をせねばならないことに不安を感じる。HPの最終責任部署は学研企画課の企画広報係だと思うが、十分に機能しているのだろうか。付け加えると、「市の計画・報告書」のページは分類もされておらず、非常に見づらいものだ。間もなくHPが刷新されると聞いてはいるが、今後は見やすく点検の行き届いたHP管理をお願いしたい。	いただいたご意見を学研企画課と共有しますとともに、ご指摘の点について市ホームページを修正します。	—
3	意見	2頁 計画の位置づけ	計画の位置づけ、計画期間、計画策定の手法、検証方法などを図解で示す必要がある。文字だけでは理解しにくい。国の法律・計画と府の条例・計画との関連を明らかにすべきだ。その次に、「木津川市環境基本計画」に紐づく他の計画、つまり「地球温暖化対策実行計画」、当計画の上位計画の「木津川市ごみ処理基本計画」、策定が国から義務付けられている「分別収集計画」や、「災害廃棄物処理計画」についても分かりやすく説明すべきだ。	木津川市ごみ処理基本計画との統合時期や計画期間について図解を追加します。  なお本計画は市が独自に策定するもので、他の計画や、法令との上位・下位等の関連はございません。法定計画である木津川市ごみ処理基本計画においては関連する法令や計画に関する図等を記載しており、今後同計画と統合するにあたっては、図解の充実含め、より分かりやすい表記に努めます。	修正
4	質疑意見	12頁 ごみ減量・リサイクルへの関心や取り組み状況	令和7年8月にアンケート調査を実施し、269件の回答があったと書かれている。一般的なアンケート調査では許容誤差を5%にするのが標準的で、本市の人口規模では少なくとも380件くらいが必要な回答数になる。単純計算で111件足りない。前回調査（平成23年）の際は無作為抽出の郵送で3000通を送付し、1277件の回答を得たとある。なぜアンケート調査の方法がここまで変わってしまったのか。理由が知りたい。そして269件ではデータするには不足だとの判断がなかったのも問題だ。更には回答者の居住地域も木津に大きく偏っているし、年齢構成も20台未満がたった1人（前回17人）、80歳以上も5人（前回72人）などと偏りがあるものだ。広報誌に挟んだ「MOTTAINAI便り」でのアンケート調査では回答はわずかしか集まらないと自覚し、今後は無作為抽出の郵送や団体に直接ヒアリングすること、小中学校の協力を得て子どもたちにもアンケート調査するなど工夫をして信頼性の高い調査を実施して欲しい。よって、前回調査から飛躍的に割合が増えているなどこの間の成果が上がったかのような解説がいくつかされているが、回答サンプルが少なすぎるうえに偏りがあるサンプルなので分析の信ぴょう性は低いと言わざるを得ない。	今回のアンケート調査では、より広く回答を募るため、市内全戸（約30,000世帯）に配布しています「MOTTAINAI便り」の1面を使い、アンケート調査へのご協力を募りました。また、ご負担なく回答いただけるよう、設問数を前回と比べ半分以上に絞り、今回は二次元コードを読み取ることでスマートフォン等からも回答できるよう工夫しましたが、ご指摘のとおり想定より回答者数が少なかったことから、次回意識調査等を実施する際には、ご提案の手法を含め、より多くの方から回答いただける調査手法を検討いたします。	—

番号	種別	該当箇所	ご意見	市の考え方(案)	計画への反映
5	意見提案	31頁 事業系ごみの減量目標	「事業者によるごみの排出実態の把握及び分析に努め、業種や事業規模に応じた排出傾向の把握に努めるとともに、効果的な減量対策を検討し」とあるが、「努め」、「検討」するのでは実行力がないのでは。事業者の責任をもっと問う必要がある。 「事業系ごみ減量に関する取組み」を独立させて設定すべきだ。内容としては ○ゴミ削減に向けて木津川市商工会との連携強化 ○事業者研修会の開催 ○事業者向けニュースの配信 ○立ち入り調査(多量排出事業所) ○搬入物展開調査の実施 ○搬入物目視確認の実施 ○再生資源共同回収事業及び機密文書溶解参加事業所を増やす ○イベント時のごみの減量促進 ○事業者に対して「ごみ削減目標」の提出を求める ○環境保護に協力している事業所を認定し広報する仕組みの導入(例:木津川市エコショップ認定) ○レストランなどにおいては、少量メニューの導入 ○持ち帰り希望者対応の促進 ○フードドライブ運動への参加要請 ○簡易包装の取組み促進 ○代替素材の検討促進 などがあつた。 (以上は第四次 豊中市ごみ減量計画を参考にさせて頂いた。)	事業系ごみに関する施策(案)を追加します。	修正
6	意見提案	32頁 ごみの減量に向け実施する具体的な施策	この計画の中でもっとも大切な部分だが、内容が足りないと感じる。施策を推進するには「行政」「市民」「事業者」が一体になり取り組む必要がある。このページにはまずそれを分かりやすく表した図があつたほうが良い。 また、「循環意識の醸成」については、市民だけでなく「行政」も「事業者」の参加も必要であるから、そのように記載したほうが良いと思う。 この施策についての部分は分類して記載すべきだろう。 (1) 市民・事業者・行政の協働による循環型社会の構築 (2) 家庭系ごみ減量等に関する取組み (3) 事業系ごみ減量等に関する取組み (4) 廃棄物適正処理の推進 (5) 食品ロス削減に向けた普及啓発(食品ロス削減推進) (6) 市民・事業者等と連携した取組みの推進(食品ロス削減推進) (7) 循環利用の推進(食品ロス削減推進) (以上は第四次 豊中市ごみ減量計画を参考にさせて頂いた。)  更には新しい課題に対しても対策を講じるべきだ。火災などの原因になつて問題視されるようになったモバイルバッテリーなどの危険物の廃棄に関する市民啓発の強化も追加して欲しい。	行政・市民・事業者が一体となり取り組むことについて、記載を追加します。 また、事業者も参加する取組みとして、事業系ごみに関する施策(案)を追加します。  なお、膨張したモバイルバッテリーは環境課窓口にてお預かりしており、他の危険物も含め、啓発及び収集方法の周知に努めます。	修正
7	提案	33頁 「ごみ分別アプリ」の配信	市内で外国人住民が増えており、その数は1200人を超えている。外国の人達がまず困るのがゴミの分別である。このアプリでは英語/中国語/韓国語/ベトナム語に対応していることを明記すべきだ。しかし、他の言語の外国人住民も多いことから、「やさしい日本語」も導入することでより多くの外国人住民の利便性を確保できるのではないかと。将来的には多言語対応のアプリに更新することも検討してはと思う。	ご指摘のとおり、当該アプリの外国語対応について追記します。 また、やさしい日本語の導入可否について、当該アプリ開発事業者と協議します。	修正
8	意見提案	33頁 市民活動の表彰制度	ごみ減量に関する事業者や市民の活動を表彰して更なる啓発に繋げるのは理解できるが、川柳や標語などを公募して優秀作品を表彰するのはもはや意味が変わってくると思う。市民活動に対してではなく、ごみ削減に力を入れている事業所を認定する制度を導入してはどうだろうか。豊中市が「エコショップ認定制度」を導入している。ステップアップ認定もしており、優良➡優秀に認定することで宣伝効果にもつながり、事業者は意欲的になる可能性がある。	お示しの認定制度について、調査・研究を進めます。	—
9	提案	34頁 環境学習事業	出前授業・地域学習会について書かれているが、具体的な目標値を掲げるべきではないかと。例えば、「公立小中学校・認定こども園・保育園・幼稚園での環境学習」とし、全ての学校園での環境学習の機会を確保するなど。地域についても自治会と連携するなどして確実な実施をする。	毎年校長会にて出前授業の実施を案内し、各小中学校が希望される内容やスケジュール等を確認しながら調整・実施しております。 引き続きより広く学習機会を確保できるよう、自治会等との連携も視野に入れ、検討します。	—
10	提案	34頁 廃棄物減量等推進員の会 エコリーダー「くるっと」	廃棄物減量等推進員が担い手になるよりも、子どもたちが主体になる方がよいのではないかと。市内の全小中学校に「廃棄物減量推進委員会」を設置することを提案したい。そこで各校独自の取組みを展開し、年に一回でもよいので全校で交流するような取組みにすれば、子どもたちもやりがいを感じるだろう。やってもらうのではなく、子どもたちが主体になる。これは子どもたちの「生きる力」を育むことにもつながる。 YouTubeチャンネル「くるっと木津川」の紹介も当該計画に記載すべきだし、よりよい活用についても話し合った方がよいと感じる。私自身は環境問題に関心のある方だと自負しているが、このYouTubeチャンネルは全く知らなかった。	子どもたち及び教職員、保護者の方々とも連携して廃棄物の減量に取り組む環境づくりのため、ご提案の委員会の設置可否も含め、各学校等との協議・連携を進めます。 なお、エコリーダー「くるっと」に関する記載につきまして、令和8年度より市廃棄物推進員は会としてではなく、個々の推進員による活動へと移行することとなつたため、本記載を修正します。	修正

番号	種別	該当箇所	ご意見	市の考え方(案)	計画への反映
11	意見提案	34頁 中間処理場見学会・廃棄物講演会	中間処理場の見学は大いにすべきと考える。これも教育と連携させた方がいい。小中学校の子どもたちは現場を知る必要がある。自治会、商工会などとも連携した方がいい。	小中学校等と連携した中間処理施設の見学会等について検討します。	—
12	質疑	35頁 ごみの減量及び再資源化の推進に向けた施策	前回計画にあった、「学校用品リユース推進事業」、「廃油回収事業」、「雑草たい肥化事業」は怎么样了のか。もう実施しないのか?詳細を知りたい。	「学校用品リユース推進事業」については、市として実施はしていませんが、制服のリユースを推進する団体に対し支援を行っております。また、「廃油回収事業」「雑草たい肥化事業」については一部内容を変更し実施しています。	—
13	提案	35頁 市民提案型ごみ減量活動等補助金	審議会の資料によれば、現在以下5件の活動がある。➡生ごみたい肥化、フードバンク木津川、地域の竹で生ごみコンポスト【ごみ減量と地域循環】、食とモノのRe-bornプロジェクト、制服のアップサイクル。このうちの「生ごみたい肥化」の取組みだが、市民の経験を発展させて、木津川市の事業として取組んでどうか。岡山県真庭市では生ごみを「バイオ資源」として無料で収集している。それをもとに「バイオ液肥」を作り、無料で市民に配布している。本市でも独自の取組みを模索すべきだと思う。	市の新規事業としてバイオ液肥の配布事業等を実施することについて、ニーズ把握や費用対効果の検証、委託先の有無等について、調査・検討を進めます。	—
14	意見提案	36頁 紙類の再資源化事業	「インセンティブとして回収重量に応じた補助金」があるが、交付単価が令和7年から1kgあたり5円➡7円に値上げされている。この値上げについては賛否両論があったと聞く。私としては否定的な立場をとる。理由としては、自治会によっては活動が殆どないにも関わらず、古紙回収に協力する(実際は各自が自宅前に古紙を置くだけ)だけで自治会にお金が入ってしまい、使われない資産として蓄積されているケースもある。古紙回収で業者から支払われる金額に加えてその約2.5倍もの補助金を市から得ているが、活動がないので使い道がない。結局無駄な税金の使い方になっているのではないかと。一部の子ども会などは資金不足に困っており、古紙回収で活動資金を稼いでいる、だから古紙回収の補助金を上げて欲しいという理屈を聞いたことがあるが、問題を複雑化させていないだろうか。市は古紙回収支援ではなく市民活動支援をきっちり行えば解決する話だと思う。古紙回収の補助金をいたずらに上げるのではなく、市民活動状況に応じた補助金を整備すれば解決するはずだ。雑紙や新聞紙、牛乳パックを資源として扱うことは今や殆どの市民の意識の中に定着している。補助金を上げたところで市民一人ひとりには影響もない(自治会の財布に入る)。市民の活動をいかに応援していくべきか、市はよく考え直す必要があるだろう。	交付単価の引上げについては、現在その効果を検証中であり、必要に応じ見直しを行います。	—
15	意見提案	37頁 剪定枝等の再資源化事業	我が家の狭い庭でも剪定枝が結構な量になるので、チップ化出来たらいいのにも思うが、機械を借りるほどの量でもないということで結局は燃やすごみになっている。個別でやるのではなく、一か所で集積所を作った方がいいのではと思う。焼却場のある「環境のもり」に剪定枝を持ち込んでよいようにし、チップ化したものは自由に持ち帰ってよいようにするなど。個人の取組みで終わるのではなく、仕組化することが必要ではないか。	設備の設置費用や運営コスト、チップ化のニーズについて、調査・研究を進めます。	—
16	意見提案	39頁 循環型社会推進基金	基金の在り方を見直すために、木津川市廃棄物減量等推進審議会の評価部会が検討をしているとのことだ。これと併せて市民に対してアンケートをとってもいいのではないかと。様々なアイデアが出てくると思われる。市民が払ったゴミ袋代の積みあがった基金のことは審議会委員だけでなく、みんなで考えたい。	市民の意見を広く取り入れるため、アンケート等の方法を検討します。	—
17	意見	該当ページなし 「もったいないプラン」の評価・検証	「循環型社会推進基金活用事業」の「評価・検証」についてが明記されているが、「もったいないプラン」全体の「評価・検証」は誰がするのか書かれていない。そもそも、本計画案に前計画の「評価・検証」も見当たらない。前計画によって得た成果や課題をどう今計画で発展または克服するかも書かれていないため、連続性がないものになっている。前計画のp.3には「中間時点である平成32年度(2020年)に達成状況を評価し、必要に応じてごみ減量施策や計画目標などを見直すこととします。」と明記されていたが、実際のところは平成25年～令和7年(2013年～2025年の12年間)、一度も見直しがされなかった。この間、何も変化がなかったのならまだしも、①リサイクル研修センターの廃止②ゴミ袋の有料化③環境の森の稼働(いずれも2018年)など、大きな変化がいくつも起こっている。それにも関わらず、一度も見直しをしないまま、「もったいないプラン」は12年間放置されたと言うのは言い過ぎだろうか。計画を生きたものにするならば、定期的な見直し、加筆や訂正が当然のはずだ。熱意ある審議会の委員、十分な職員配置など改善が必要だと思う。	本計画の評価・検証は、木津川市廃棄物減量等推進審議会に諮りながら、本計画の策定主体である市が実施します。ご指摘のとおり、前計画においては計画の見直しが行われず計画の内容が現状と乖離してしまっていたことから、今計画においては、必要に応じた見直しではなく、計画期間を前期・中期・後期に分け、各期末に実施することとしています。	—
18	意見提案	該当ページなし 木津川市廃棄物減量等推進審議会	審議会の在り方が気になる。去る11月17日の審議会は委員の数が定足数に満たなかった(15人中7人のみ出席)ために不成立であった。色々な理由で急な欠席が多かった不運な日と言えればそれまでだが、事前に日にちも通知されていたはずで、半数も欠席するというのは委員の「やる気」や「熱意」が足りないのではと推測されても仕方ない。自分にとって大切な会合は都合をつけてでも絶対に出席するものだ。審議会委員の選考方法を見直す必要があるのではないかと。無作為抽出の候補者に依頼を出し、そこから応じてくれた人を委員にする「無作為抽出方式」や、市民委員を大幅に増やして、無理矢理やらされる「充て職」の委員をとにかく減らす方法等、改善策を考えなければ熱意ある会議にはなりようがない。現在、15人中、充て職は6人もいる。公募委員は3人、有識者は2人だ。大阪市の類似の会議は14名中、学識経験者が7人、流通関係が2人、消費者団体1人、市民2人、市民活動団体1人、経済団体1人。学識経験者を重視、ゴミを排出する商店・流通関係から2人、生協から1人などかなり考えて構成されているように思った。大阪の手法を参考にして、あと二人くらい有識者を加えてもいいのではとも思った。小売り代表では「プラント」や「フォレストモール」、消費者団体代表は「京都生協」、市民活動団体は「エコリーダー」、経済団体は木津川市商工会などの参加が良いのではないだろうか。よりよい審議のために検討して欲しい。更には、令和4年9月30日の審議会を最後に議事録がHPに掲載されていない。審議の様子を知ることが出来ず、このパブリックコメントも中途半端な内容になってしまった。環境課の業務量と職員数が見合っていないのか。先に挙げた計画が古いままの問題も、議事録の掲載が間に合っていないことも、審議会が定数割れで開催出来ないことも、根っこでつながっているような気がしてならない。ギリギリの人数で許容量を超えた業務をこなせと要求されれば、丁寧にやりたくとも手を抜かないと日々の仕事でこなせないだろう。追い込まれて精神疾患になる職員も出かねない。職員体制の見直しも急務だと思う。	審議会運営へのご指摘について、事務局への貴重なご意見として参考にさせていただきます。なお、本審議会委員は、市条例に基づき、学識経験者のほか、本市の現状や課題を鑑み市長が適当と認める者に委嘱しております。	—

番号	種別	該当箇所	ご意見	市の考え方（案）	計画への反映
19	意見提案	4頁	<p>p4のごみの排出量の減少についてですが、「人口の減少に伴い」だけでなく「市民や事業者の努力」も書いてはどうでしょうか。R4までは人口増えてますが、ごみ総量は減ってるようですので。</p> <p>令和からのごみ袋有料化でも大きく減っていますので、頑張っている事や有料化が削減につながっている、というアピールをどこかに入れたほうが良いと思います。</p> <p>上にも関連しますが、人口減少で（現状の一人あたり廃棄量なら）下がる分と、それに少し頑張り分を上乗せしたのが目標値であるべきだと思いますが、そういった内容は何処かに（まとめでも、最初にも）記載がある方が良いと思います。個々に数字を出して説明する必要は無いと思いますが。</p>	<p>ご指摘のとおり、市民や事業者の方々に努力いただきごみの排出量が減少している旨及び目標値について、追記いたします。</p>	修正
20	意見	16頁	<p>次回アンケートされるときに、の話ですが、p16「まだ利用できる・・・」の回答選択肢について、メルカリなどのネット売買は②なのか⑤なのか（④なのか）分からないと思います。メルカリはオークションバージョンも始められたそうですが、基本はイイ値だとも思いますので。</p>	<p>同様のアンケートを実施する際には、選択肢についても改善いたします。</p>	—